

五料地区防災公園計画の進捗は



高橋茂樹



町長

重要施設として
引き続き研究する

質問 五料地区の防災公園計画の現状と今後の進め方は。

町長 防災公園計画は、平成24年頃に区から話があり、平成27年に公園の位置や概要に関する案を検討した。公園整備以外にもアクセス道路等のインフラ整備も必要であり、大きな費用がかかることから、現在まで具体的な進捗が図れていない状況である。
災害時、一時的に避難ができる防災的な役割を持つ公園は、重要な施設であると認識しており、引き続き調査研究を行っていきたいと考えている。

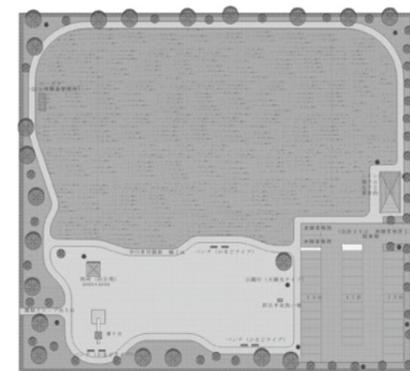
矢川樋管周辺の冠水対策は

質問 防災対策として、矢川樋管に関連する用排水路の見直しは。

町長 矢川樋管周辺の冠水原因及び対策について調査検討を行った。その結

果、冠水が起る原因は、矢川樋管の内水のみ起因する流下能力に問題はないが、樋管出口の烏川への流出部の高さの関係上、台風等で烏川の水位が上昇した場合には内水排水能力が低下することが原因との結論となった。

その対策として、矢川樋管より上流で内水を烏川へ排水する方法を検討した結果、2つの対策が考えられた。まず、第1案は五料・飯倉地内でおおむね県道142号線北側より流入する排水を飯倉地内の矢川へ流下させるバイパス排水路を設置する。第2案は、矢川樋管より上流の菅沢樋管の改修及び付近の排水路を改修し、菅沢樋管の排水機能を増大させる。いずれも矢川樋管の内水流量を軽減させる案であるが、冠水対策として一定の効果は見込まれるものの、台風第19号規模の大型台風による降雨状況では完全に冠水を防ぐことが困難である。完全な冠



五料地区防災公園計画(案)のイメージ図

水対策を施すにはバイパス排水路をさらに追加するなど多大な費用も要することから、段階的に整備していかなければ冠水を防ぐことができないのではないかと結論に至った。
今後、これらの対策を実施するにせよ、関係機関との協議や財政措置の検討が必要となるため、段階的に検討していきたいと考えている。

こんな質問もしています

- ・コロナ禍における小・中学校の対応について
- ・移住希望者の受け入れ体制について

こども家庭センターの設置を求む



三友美恵子



町長

チームを組んで
研究している

質問 「こども家庭庁」が来年度4月に設置される。

また、「こども基本法」も制定が見込まれていることから、町は「こどもまんなか」社会(※)をどのように構築していくのか。

町長 こども家庭庁は、いじめや虐待、不登校、貧困などの解決に向けて、政府が設置を目指している。こども家庭庁ができることで、子供や子育て世帯に対して、必要な支援が途切れなく届くことが期待されている。

町は、常に子供や子育て世帯の目線に立ち、その方々の利益を第一に考える社会を目指し、各種事業に取り組んでいく。

質問 子ども基本条例を制定する考えはあるか。

町長 こども基本法の制定に伴う群馬県等の動向を踏まえ、検討していく。

質問 子供や家庭の総合相談窓口として、こども家庭センターを設置する考えはあるか。

るか。

町長 子供たちの様々な課題を解決するため、その入り口として職員がチームを組んで研究しているところがある。

質問 玉村町の子供のいじめや不登校、虐待の現状を問う。

教育長 子供たちを日々丁寧に観察し、小さないじめも見逃さないようにした結果、昨年度、小中学校で対応したいじめの件数は約300件である。全職員でいじめの未然防止や早期発見、早期対応に取り組んでいる。

不登校の児童生徒について、社会的に自立できるように心理等の専門人材を活用しながら、本人や保護者の気持ちに寄り添った支援を行っている。

町長 虐待については、通報か

ら24時間以内の目視確認に努め、関係機関との確な連携を図り、虐待防止に取り組んでいる。

放課後児童クラブの産後の利用期間延長を

質問 放課後児童クラブの産後の利用可能期間は2か月間であり、その後の育児休暇中は子供を預けることができない。産後の体調等に合わせた利用はできないか。

町長 各家庭の状況を考慮できるよう、クラブの委託事業者とも協議する。

(※)「こどもまんなか」社会：子供の視点に立ち、子供の利益を第一に考える社会

